

— 地域に根づく歴史と文化を大切に社会資本を「カタチ」にします —

中部復建 株式会社

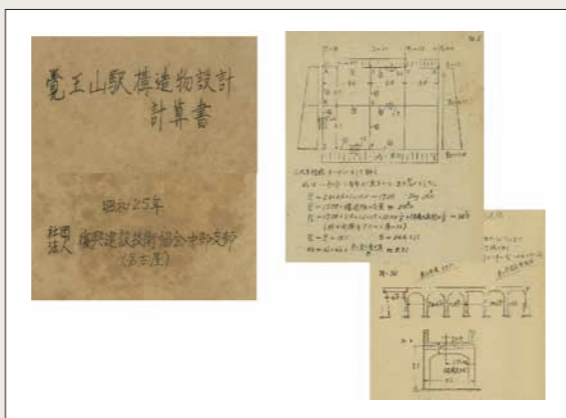
創 立：昭和21年（復興建設技術協会）
 代 表 者：代表取締役社長 今村 鐘年
 所 在 地：名古屋市昭和区福江一丁目1805番地
 TEL : 052-882-6611
 FAX : 052-882-9844
 URL : http://www.chubu-fk.co.jp
 従 業 員：74名
 各事業所：岐阜支店・三重営業所・浜松営業所・豊田営業所・
 一宮営業所・東三河営業所・東濃営業所



当社保有のレーザスキャナ



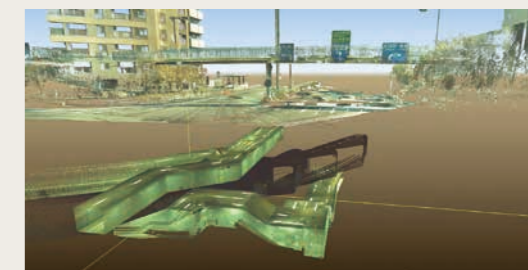
レーザスキャナ計測による社屋



昭和20年代の地下鉄駅舎設計書（ガリ版印刷）



平成8年より毎年行っている、清掃活動及び施設点検の地域文化活動



地上と地下におけるレーザスキャナ計測の合成

中部の「土木文化」見てある記 土木施設遺産 中部復建 濁つし橋

濁つし橋

浜名湖の北東端、豊田川の河口部に、赤い湾曲な橋が架かっている。浜名湖サイクリングコースのシンボルとして昭和64年に造られた。当社設計による自転車専用橋である。橋長3m、橋高190m、欄干は華やかな彫刻、真中は鋼製のアーチ橋である。アーチから彫刻がワイヤーで吊られているので、その枠内は透けて見える。背景は山の緑色であるので、反対色である赤色が景観にうまくマッチしている。

橋の名前は「濁つし橋」という。濁（みお）とは小舟の航路のことであり、橋（つし）は鉄橋を示す漢字のことである。舟が鉄橋に掛り上げないように、濁いところを知られるために立てられた。豊田川河口には、1800年頃から大正時代まで立てられていたという。橋の欄干の上に、海龍の形を模したモニュメントが飾られている。海龍は、「水の龍」と謳われた大塚に龍が眠ることから、現在の大塚市の市章にその形が盛り込まれている。

オフィシャルブログ「中部の『土木文化』見てある記」の紹介

中部の「土木文化」見てある記 土木施設遺産 中部復建 サカエチカ(地下街)

サカエチカ(地下街)

地下街とは、地下鉄駅やビルなどの地下部分を公共地下空間の両側に、商業施設が導入したものである。名古屋には地下街が多いと聞かれている。その理由は、道幅が広いことと関係しているのではないかと考えられている。これは私の考えだが、名古屋の気候の涼しさもあるのではないかと考えられている。夏の暑さや冬の寒さを避けるのである。地下街が導入するのは、名古屋駅地区と栄地区である。栄の真ん中、栄交差点の地下に「サカエチカ」がある。延べ床面積約1万4000㎡、商業施設の面積は約8000㎡、80の店舗が「の字」に並んでいる。「の字」の交差点部分が「クリスタル広場」で、待ち合わせの名所になっている。

サカエチカが導入したのは昭和44年(1969)、今年でもう約60年になる。この60周年を機に、全面的なリニューアル工事が進められている。新設の店舗、老舗の復活、天井・壁などを全面に改修する工事などである。昨年、トレが新しくなった(当社・中部復建の設計)。一日10万人もの人々が歩く地下街にあって、もっとも賑やかな場所である。クリスマスには巨大なモニュメントと飾りが、夏は花火大会で盛り上がるようになった。お正月を過ぎて、門除と飾りのモニュメントが置かれている。階段も改修予定であるが、現在は、一年中賑やかな立体花壇が飾られている。

会社の概要

当社の前身は、社団法人復興建設技術協会中部支部であり、昭和21年に発足しました。この協会の設立にあたっては、終戦により海外から引き揚げて来た「建設技術者の雇用対策」と、その技術力を「戦災の復興と新しい日本の建設に貢献させる」という二つの目的がありました。

昭和35年に、社団法人から「株式会社中部復建事務所」となり、建設コンサルタント会社の先駆として、国、地方公共団体及び民間の調査・設計に携わってきました。

昭和54年からは「中部復建株式会社」に社名を変更し、事業の発展に伴い新社屋を現在の場所に移転し、「昭和の高度経済成長」の一端を担いました。

平成28年には創業70周年を迎え、令和の新しい時代も「復興の志」を伝承しつつ、建設コンサルタントとして地域の発展と社会資本整備に貢献してまいります。

3次元推進技術の取組 ～3次元計測・設計～

国土交通省では、測量・調査から設計、施工、維持管理に至るまで、建設生産・管理システム全体における3次元データの活用やICT等の新技術の導入を加速推進しています。今後、3次元データを活用する機会はますます増加していくと考えられます。

当社では、業界の動向に対応すべく全社的に取り組んでいます。地上型レーザスキャナを導入して8年、現在では狭い室内から数百mの広いフィールドに対応できる複数のレーザスキャナを保有し、調査・測量、設計、補償等各分野での活用を推進しています。

3次元計測では、災害現場をはじめ道路、河川、橋梁、鉄道、地下街、地下鉄、トンネル、モニュメント等、多種多様な計測を実施。その計測結果を、形状把握や変位計測、各種図面作成に活用して実績を積み重ねてきました。また、UAVや車両搭載型計測等、異機種から得られた3次元データ活用にも積極的に取り組んでいます。

これまでに培った経験と技術を活かして、顧客要求

精度を確保できる適正な計測手法を提案し、3次元データの有効活用に取り組んでいます。

「中部の『土木文化』見てある記」の発信

当社は、戦後から一貫して土木施設の計画・設計に携わってきました。私どもが設計した土木施設が地域の皆様に親しまれ、便利に利用されていることを絶えず願っています。

7年前から当社では、ホームページの中に「中部の『土木文化』見てある記」というブログを発信しています。これは、地域の皆さんに、土木施設をより身近に感じていただくとするもので、中部地方の各地を訪ね歩き、先人の残してくれた土木遺産などを紹介しています。取り上げる範囲は、道路・橋・トンネル・ダム・石垣から、河川・池・田畑や公園まで幅広く、取材する地域は「中部」ですので、愛知・岐阜・三重・静岡が中心ですが、時には長野や北陸まで足を伸ばすことがあります。番外編として、東京や京都、さらにヨーロッパの施設を載せることもあります。

7年間で約500回の発信をしましたので、是非ご覧いただきたいと思います。また、皆様の近くに、残しておきたい「土木文化」があればお教えいただければと思います。

おわりに

社会資本整備の最上流である調査・測量・設計・補償関連業務の一端をお手伝いさせて頂いている当社は、人との繋がりを大切に、創意に努め、最高品質の成果品を提供し、信頼・信用のもとに責任を持って地域に貢献する事が、建設コンサルタントの使命と捉え、それを社員憲章に揚げ、実現のため取り組んでおります。社会環境や自然条件など社会資本整備が大きく変動する中、常に技術力の向上を怠らず、顧客ニーズを積極的に取り込み、「迅速な対応・細やかな心遣い」をモットーに、技術の提案型企業として地域社会に貢献できる良質な成果を提供するために、これからも社員一同全力で取り組む所存であります。

(文：取締役：大場邦弘、執行役員営業部長：木田末雄)